

第5学年 国語科学習指導案

日 時 平成21年10月23日(金) 第5校時
児 童 男11名 女13名 計24名
授業者 菊池 努

1 単元名 目的に応じた伝え方を考えよう(光村図書 5年下)

2 教材名 「ニュース番組作りの現場から」(清水 建宇 文)
「工夫して発信しよう」

3 単元について

(1) 教材について

5・6年の「読むこと」における目標は「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広めたり深めたりしようとする態度を育てる」である。内容においては「イ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること」「オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること」が掲げられている。「書くこと」における目標は「目的や意図に応じ、考えたことなどを文章全体の構成の効果を考えながら書く能力を身につけさせるとともに、適切に書こうとする態度を育てる」である。内容においては「ア 考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること」「イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること」「エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと」「オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること」が掲げられている。

本単元では、ニュース番組作りについて書かれた文章を読み取り、それを生かしてニュースを発信する活動を行う。まず、教材文1「ニュース番組作りの現場から」で情報の選択、配列、編集、表現といったニュース番組作りの一連の流れについて学習し、次に教材文2「工夫して発信しよう」で、自らニュース作りを進める際の具体的な活動方法を学習する単元構成となっている。「ニュース番組作りの現場から」での学習では、ニュース番組作りの手法や流れを把握すると同時に、一つ一つの活動には発信者の意図や願いが込められているということを確実に読み取り、自分たちが手がけるニュース作りに生かすことが学習の柱になっている。

(2) 児童について

4年生では「新聞記者になろう」「アップとルーズで伝える」を学習し、より効果的な表し方や材料の選び方について学習している。5年生では「サクラソウとトラマルハナバチ」を学習し、段落を要約して部分的な要旨をまとめることと、それに対する自分の考えを表すことができるようになってきたものの、様々な要因を列挙して論を展開することはまだまだ不十分であり、今後も話し合い活動等で意識して指導していかなければならない。

一人学びについては、また、調べたことを発言することや正しい答えを見つけることやそれを発表することは得意としているが、説明や理由づけをするような思考を伴う場面では発言できる児童に限られている。自分の考えに自信が持てないことと、自分の発言による周りの反応を気にしてしまうことが考えられ、学級経営上の大きな課題である。しかし、小グループの中では思ったことを気兼ねなく発表できる児童が増えつつあり、意図的に話し合い活動を取り入れ、自己表現する機会を多くしているところである。

(3) 指導について

学習計画を立てる段階では、グループ毎にニュースを作り発表する活動を行うことを伝え、グループ毎に題材をいくつか準備させたりおおよその役割り分担をさせたりする。発表活動に取り組むことを念頭に置きつつ教材文1「ニュース作りの現場から」を主体的に読み取らせることが主なねらいである。「報道スタッフ」「デスク」「ディレクター」「アナウンサー」「キャスター」「カメラマン」という役割りを混同することなく学習が進められる効果も期待される。教材文を発表活動に学習の後半には教材文を読み取ったことを生かしながら実際にニュース作りを進め、学習の最後には、学級で交流したニュースを昼の放送を活用し、全校に向けて発信する。

「ニュース番組作りの現場から」の学習では、12段落「筆者のまとめ」の内容に対応させ、全体を「話題選びと会議」「取材とその結果を踏まえた会議、撮影」「編集、原稿作成と放送」に分け、読み取った留意点や工夫を表にまとめていく。また、調べた資料や撮影時の映像として挙げられている写真の視覚効果について、4年下「アップとルーズで伝える」の学習と関連づけて考えさせたい。

学び合いについては、実際にニュース作りを進めていく上でポイントとなる事項やそれぞれの役割りについて、グループ単位あるいは役割り毎に読み取ったことを確認し合うことを目的として行う。

4 指導目標

- (1) 国語への関心・意欲・態度
 - ニュースを探して伝えることに関心を持ち、ニュースを完成させようとしている。
- (2) 話すこと・聞くこと
 - 自分の伝えたいことや意図が伝わるように、話の組み立てを工夫しながら、適切な言葉遣いで話す。(話・聞 ア)
- (3) 書くこと
 - 自分が伝えたいこと、相手が知りたいことなどを考えて発信する。(書 ア)
 - ◎編集作業を通して、書く必要のある事柄を整理している。(書 イ)
 - ◎集めた材料を、目的に合わせて整理し、加工して伝えている。(書 エ)
 - 伝えたい内容を表現するのにふさわしい方法を考えている。(書 オ)
- (4) 読むこと
 - 番組作りの大切な点を的確に押さえながら、報道スタッフの願いなどを読み取っている。(読 イ)
 - ◎自分たちが番組を作るために必要な事柄を時間の順序にしたがって段落ごとに読み取っている。(読 オ)

5 指導計画 (15時間扱い 読む7 書く6 話す・聞く2) 本時5時間目

段階	学習活動	評価規準		
		関心・意欲・態度	読むこと・書くこと	言語事項
つかむ	1 全文を読み、初発の感想を交流する。 ・初発の感想を交流する ・四字以上の熟語や外来語の複合語について調べる	・教材文の内容から初めて知ったことや興味を持ったことをノートに書こうとしている。		・新出漢字を正しく読んだり、難解な語句の意味を理解している。
	2 学習計画を立てる。 ・学習の流れを確認する ・題材の候補を集める ・ニュース作りの役割りを分担する	・ニュースとして取り上げる題材について興味を持って話し合いに参加しようとしている。		
読み取る	3 ①～③段落を読み取る。		・防災訓練を取材するきっかけと、取材の中心を読み取っている。	・複合語「気象情報」「防災訓練」「ニュース番組」の言葉の結びつきを理解している。
	4 ④～⑧段落を読み取る。		・取材や撮影をする上で大事なことや工夫を読み取っている。	・複合語「防災担当者」「観光業者」「住民感情」「取材結果」「ビデオ映像」の言葉の結びつきを理解している。
	5 ⑨～⑩段落を読み取る。		・編集の視点と放送用原稿作成上の工夫について読み取っている。	・複合語「観測結果」「放送用原稿」の言葉の結びつきを理解している。
	6 ⑪～⑫段落を読み、これまでの学習を確認する。		・発信者の意図や願いのもとにニュース番組の特集が作られていることを理解している。	
	7 グループで行うニュース作りのテーマについて話し合い、企画書を作成する。	・自分たちの活動を見通しながら意見を持って話し合いに参加しようとしている。		

まとめる	8 「工夫して発信しよう」を読み、情報発信までの手順を確認する。		・「ニュース番組作りの現場から」の内容と関連づけながら実際の手順を理解している。
	9～11 グループ毎に作成した企画書に基づき、取材や撮影を行う。	・主体的に活動しようとしている。	
	12～13 P44「編集して伝える」を参考に、編集し、放送用原稿を作成する。		・相手意識、目的意識を持ち、資料選択、配列、加工をしている。
	14 ニュースを発信し合い、交流する。	・他のグループが発信するニュースの意図や工夫を見つけながら鑑賞しようとしている。	
	15 ニュース作りについて振り返り、情報の発信や受信について話し合う。	・ニュース番組作りを振り返り、これからのニュース視聴についてどうあるべきか考えようとしている。	

6 本時のねらい

(1) ねらい

- ・編集の視点と放送用原稿作成上の工夫について読み取ることができる。
(具体の評価規準)

	おおね達成	支援の手だて
具体の評価基準と支援の手だて	ディレクターが考えた編集のしかたと、放送用原稿の書き方の工夫を読み取っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・⑨段落では「ディレクターは」という主語を使って質問していることと、後半部分は具体例であることを確認し、どう編集するのかを見つけるよう指示する。 ・⑩段落前半は書く活動そのものであることを押さえ、工夫の内容はどの部分になるのか見つけるよう指示する。

(2) 本時の指導にあたって

9段落では中心文にある2つの視点を明らかにし、ニュース前半と後半がどのような内容になるか結びつけていく。10段落では放送用原稿作成上の工夫を列挙し、その一つ一つが具体的にどういうことなのか、事前に準備した例文をもとに校正する。特に「主語と述語の間をなるべく開けないように」という工夫のよさについて確かめたい。

教科書から読み取る学習では、一人学びとしてノートの上に書き込み、全体で確認する。放送用原稿作成の工夫について深める場面では、一人学びで校正し、グループ学習ではそれを持ち寄って精査し、クラス学習では更に元の文章との違いについて交流を図る。

(3) 展開

段階	学習活動		予想される児童の反応	指導上の留意点
	学習の流れ	発問等		
つかむ	1 前時の学習内容を確認する。	・撮影するときにはどんなことに気をつけますか。	・目で見てわかるように工夫を凝らします。	
	2 学習課題を把握し、見通しをもつ。	・課題提示		
3分	編集するときと放送用原稿を作るときに気をつけることを読み取ろう。			

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ふかめる</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">32分</p>	<p>3 課題を解決する。 (1) 音読する</p> <p>(2) 編集の視点を読み取る。 【一人学び】 【学び合い：クラス】</p> <p>(3) 放送用原稿を書くときの工夫を読み取る。 【一人学び】 【学び合い：クラス】</p> <p>(4) 放送用原稿を書くときの工夫をもとに例文を校正し、工夫による効果を確かめる。 【一人学び】 【学び合い：グループ】</p> <p>【学び合い：クラス】</p>	<p>○編集に対する考え方や放送用原稿を作るときの工夫について読みましょう。</p> <p>○ディレクターはどんな考えで編集しようと思いましたか。</p> <p>○放送用原稿を書くときにはどんな工夫をしますか。</p> <p>○避難訓練の様子について書いた説明を、放送用原稿の工夫に合うように直しましょう。</p> <p>○直したものをグループで交流し、よりよい放送用原稿にしましょう。</p> <p>○元の文章と比べてみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・段落⑨～⑩を読む。 ・伝えたい内容がわかるように ・なぜ訓練が実現したか ・訓練に参加した住民はどう思ったか ・わかりやすい言葉を選ぶ ・初めに結論、後から理由を書く ・一文は短くする ・主語と述語の間をなるべく開けない ・一目でわかるように、地図や表なども用意する ・文章の校正 ・話し合い活動 ・短い文章でわかりやすくなった ・写真でわかるところは説明しなくていい 	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉読 ・読み終えたら、黙読しながら編集に対する考え方や原稿作成上の工夫にサイドラインを引くよう指示する。 ・⑨段落後半を引用する児童には、質問の主語「ディレクター」がどう考えたか教科書から見つけさせるとともに。後半部分は前半部分の具体例であることを確認し、前半部分に目を向けさせる。 ・⑩段落前半は書く活動そのものであることを押さえ、工夫の内容はどの部分になるのか見つけるよう指示する。 ・例文は、前時の活動で学習した教科書 P34 の写真を説明した文章を用いる。 ・児童が作成した例文が本学習のねらいにそぐわない場合、予め指導者が作成した文章を用いて校正する。 ・グループで話し合った結果を掲示し、元の文章との違いとよさについて発表する。 ・放送用原稿作成上の工夫がどこに生かされているか明らかにする。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめる</p>	<p>4 学習のまとめをする。 (1) 課題についてまとめる。 【一人学び】 【学び合い：クラス】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○編集するときは、伝えたい内容がわかるようにする。</p> <p>○放送用原稿を書くときは、短くわかりやすいような工夫をする。</p> </div> <p>(2) 学習を振り返り、成果を確認する。</p>	<p>○どんなことに気をつけて編集しますか。</p> <p>○なぜ放送用原稿に工夫が必要なのか。</p> <p>・今日の学習を振り返りましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・編集するときには、伝えたい内容がわかるように ・わかりやすく伝えるため ・学習ノートに記入する 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書にある事柄について振り返る活動に留める。 ・自分がニュース作りを進めていく上で参考になることと、グループ学習での他者との関わりについて書く。

10分	(3) 学習感想を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習したことを振り返りながら⑪～⑫段落を学習します。 	
-----	----------------	--	--

(4) 板書計画

まとめ

編集するときには、伝えたい内容がわかるようにする。

放送原稿を書くときは、短くわかりやすくなるよう工夫する。

写真
原文

写真
校正文

写真
校正文

写真
校正文

写真
校正文

写真
校正文

写真
校正文

へ二日前

⑩ 放送用原稿作成	⑨ 編集作業	役割り
デイレクター ○文章の工夫 ・耳で聞いて分かりやすい言葉 ・初めに結論、理由を後から ・一文は短く ・主語と述語の間をなるべく空けない	デスク ○伝えたい内容がわかるように ・なぜ訓練が実現したか ・住民はどう思ったか	ポイント

課題

ニュース番組作りの現場から編集するときと放送用原稿を作るときに気をつけることを読み取るう。